

水害時の感染対策における
衛生・消毒マニュアル

令和3年1月

岐阜県健康福祉部



目次

I	日頃の備え	2
II	水害時の対応	2
1	衛生対策と消毒の必要性	2
2	浸水後に注意すること	2
3	清掃時に注意すること	2
4	消毒時に注意すること	3
(1)	一般的な注意事項	3
(2)	次亜塩素酸ナトリウムを使用するときの注意事項	4
5	水害時の衛生対策について	4
(1)	床下浸水の場合	4
(2)	床上浸水の場合	4
(3)	食中毒・感染症の予防のために	5
6	作業時の感染症予防について	5
III	消毒	6
1	消毒薬の使用方法	6
2	消毒薬の調整方法	8
IV	水害時の衛生・消毒に関する情報	10

このマニュアルは、水害時の浸水被害において、一般の家庭で行う衛生・消毒方法を記載したものです。事業所、医療・介護施設、給食施設等におきましては、それぞれの状況に応じて対応してください。

I 日頃の備え

県内各市町村ではハザードマップを公開しています。

平時から危険な箇所や避難所などを確認しておきましょう。

また、災害が発生した場合、適切な避難行動がとれるよう、緊急連絡先、家族の連絡先、避難グッズ、避難経路等についても確認しておきましょう。

災害が発生した場合には、ご近所同士の助け合いも大切です。平時から、対応について自治会等で話し合っておきましょう。



II 水害時の対応

1 衛生対策と消毒の必要性

台風や豪雨等により浸水が起きた場合には、下水道やし尿槽の汚水などが逆流し、家屋等が汚染される可能性があります。

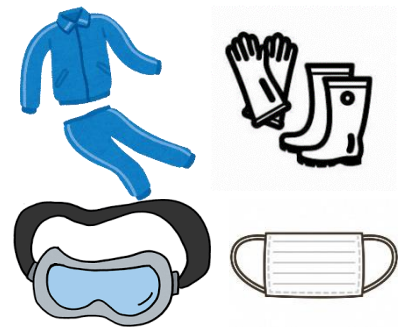
家屋が浸水した場合には、細菌やカビの繁殖、害虫が発生しやすくなるため、洗浄や消毒が必要となります。

2 浸水後に注意すること

- ・ガス漏れがないことを確認し、自宅へ戻ります。
- ・電気系統は、安全が確認できるまでブレーカーを切っておきます。
- ・プロパンガスのボンベ、車のバッテリーなどの危険物を見つけたら近づかず、消防や市町村役場等に相談します。
- ・浸水後、数日して自宅に戻るときは、屋内にカビが発生している場合があります。まず、サージカルマスク（N95 マスクは不要です）を着用して屋内に入り、ドアと窓を開放して30分以上換気した後、改めて家の中に入るようにします。
- ・子どもやペットは、清掃が終了するまで室内に入らないようにします。

3 清掃時に注意すること

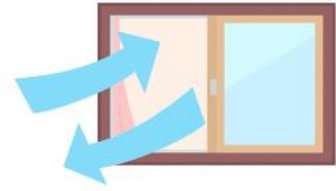
- ・けがを防ぐために、長袖、長ズボン、厚手のゴム手袋、ゴム長靴（底の厚い靴など）を着用し、ほこりから目や口を保護するため、ゴーグルやサージカルマスクを着用して清掃にあたります。瓦礫やごみを取り除く場合は、必要に応じて皮手袋や安全靴を使用します。



- ・気温が高い場合等は、熱中症にも注意し、休憩や水分補給を十分に行ってください。復旧が長期化することもありますので、無理をせず、支援者にも手伝いをお

願いしましょう。

- 室内を乾燥させるために、ドアと窓を開放します。可能なら、扇風機等を使い、乾燥を促します。
- (堅い) 床、壁、金属部分、調理台、シンクなどは、水と石鹼（洗濯石鹼や食器用洗剤）で洗い流し、泥や破片を取り除きます。高圧洗浄機を用いると効果的に洗浄できますが、その際はゴーグルとサージカルマスクを着用し、換気に気をつけます。
- 浸水して洗浄することができない家具（カーペット、布製ソファなど）や畳等は撤去します。
- 浸水した衣類・布類は、熱水洗濯、あるいは80℃の熱水に10分以上漬けた後に洗濯し、乾燥させます。
- 作業終了後は、流水と石鹼による手洗いをしっかり行い、シャワーを浴びます。
- 清掃時に着ていた服は、その他の服と区別して洗濯します。



4 消毒時に注意すること

- 消毒は、洗浄や拭き取り等により、泥や汚れを十分に取り除き、乾かした後で行います。清掃が不十分だと、消毒の効果を発揮できません。
- 十分な洗浄は消毒に匹敵する効果があります。まずは徹底的に洗浄作業をします。
- 消毒は希釈した次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤）を基本に、金属など消毒するものの材質によっては、アルコールや塩化ベンザルコニウム（逆性石鹼）を使用します。＜使用方法は「Ⅲ－1 消毒薬の使用方法」を参照＞
- 特に、食品を取り扱う場所、子どもが遊ぶ場所の表面はしっかりと消毒します。その他、人の手や粘膜が触れる環境表面が重点ポイントとなります。
- 消毒薬を過剰に使用すると、人の健康や環境に影響を与えることがあります。必要最小限の量を使用します。
- 浄化槽には、消毒薬を散布しないよう注意してください。

（1）一般的な注意事項

- 様々な濃度の消毒薬が市販されているので、希釈倍率（うすめかた）に注意します。＜調整方法は「Ⅲ－2 消毒薬の調整方法」を参照＞
- 作った消毒薬は、必ず一度で使い切りましょう。作り置きした消毒薬は効果が失われますので、使用するたびに希釈・調整します。
- 消毒薬は布に含ませるか、あるいは、薬液に漬ける方法で使用します。噴霧は、吸い込むおそれがあるため、また拭きムラを生じて不十分な消毒となってしまうおそれがあるため避けます。
- 消毒薬の容器等に記載されている使用上の注意をよく読んで使用してください。他の消毒薬や洗剤などと混合することは避けます。
- 消毒薬を取り扱う際には、窓を開け、長袖、長ズボン、ゴム長靴、ゴム手袋な

どを着用し、必要に応じてゴーグルやサージカルマスクを使用するなど、皮膚や目に消毒薬がかからないようにします。

- ・消毒薬が肌についたら、すぐに大量の流水と石鹼で十分に洗い流します。目に入った場合は、水で十分に洗い流し、医療機関を受診します。
- ・基本的に土壌の消毒は必要ありません。
- ・誤飲に注意してください。（飲料等の容器に保管しないようにします。飲み物と間違えないように容器に消毒薬名を書きます。）

（２）次亜塩素酸ナトリウムを使用するときの注意事項

- ・他の消毒薬や洗剤等と混合してはいけません。
- ・次亜塩素酸ナトリウムは必ず希釈して使用します。希釈液を作るときや使用するとき、顔面や前腕への水はねに注意します。
- ・室内で使用する場合は、窓を開放し、蒸気を吸い込まないようにします。
- ・次亜塩素酸ナトリウムは時間とともに原液の濃度が低下します。開封後数か月以内の製品を使用するか、使用期限内にある未開封の製品を使用します。



5 水害時の衛生対策について

（１）床下浸水の場合

屋外（床下や庭）の消毒は、原則不要です。

- ・床下の汚水を完全に排水します。
- ・床下や家の周囲にある不要なものや泥などは取り除きます。
- ・土砂等を取り除いた後、水で流せる場所はよく汚れを洗い流し、しっかりと乾かします。雑巾等で吸水し、扇風機等により強制的に換気するなど乾燥に努めます。
- ・床下換気口のごみを取り除き、床下の風通しを良くします。

床下は狭く、慣れない作業のため、けがや事故を招くことがあります。自分では無理のない範囲にとどめ、専門家に相談しましょう。

（２）床上浸水の場合（床下部分については「（１）床下浸水の場合」も参考にしてください）

- ・水が引いた後、濡れた畳や家の中の不要物を片付けます。
- ・汚れた家具や床・壁等は、水で洗い流すか、雑巾で水拭きし、風通しをよくして、十分に乾燥させます。必要に応じて、使用濃度に薄めた消毒薬で拭き取ります。
- ・食器類や調理器具は、汚れをきれいに洗い流したあと、次亜塩素酸ナトリウムに浸したり、熱湯で消毒をします。熱水式食器洗浄機が利用できれば最も効果的です。

- ・食器棚や冷蔵庫などの家具は、汚れをきれいに拭き取った後、消毒用アルコールなどで拭き取り消毒をします。

(3) 食中毒・感染症の予防のために

- ・受水槽や井戸は、水質検査をする等、安全と衛生を点検・確認してから使用します。
- ・水に浸かった食品や、停電により保存温度が保てなかった要冷蔵・冷凍食品は廃棄します。
- ・全ての食材は十分な加熱調理をします。特に自家栽培した野菜などが水没または泥水が付着した場合、汚染や腐敗の可能性があるため、生食は避けます。
- ・調理、食事の前やトイレ、清掃の後などは、石鹼と流水でしっかり手を洗います。
- ・体調に異常を感じたら、早めに医師に相談します。

6 作業時の感染症予防について

- ・作業による汚れには、色々な細菌等が混在しているため、洗浄、消毒に従事する際は、怪我をしないように防護し、従事後はきちんと流水と石鹼で手を洗います。
- ・すり傷・きり傷ができた場合は、傷口をきれいな水で十分に洗い流し、消毒してください。特に深い傷や汚れた傷は破傷風※（はしょうふう）になる場合があるため、医師に相談してください。

※破傷風は、医療機関で適切な治療を行わないと死亡することもある感染症です。潜伏期（3～21日）の後、口がしびれる・開きにくい、顎が疲れるといった症状から始まり、歩行や排せつ・排便の障害を経て、呼吸困難などの全身の症状へ移行します。重症な場合には死に至ることもあります。子どもの頃に予防接種をしても、10年以上経過すると効果が弱くなる場合があります。予防接種については、医師に相談してください。特に昭和43年以前の生まれの方は、乳幼児期の破傷風ワクチン接種の機会がなかったことから、作業前にワクチン接種をお勧めします。昭和44年生まれ以降の方でも追加接種が必要になります。平時に済ませておくことは、災害時以外にも有効であり考慮されるべきです。

【災害ごみについて】

水害時には、濡れた畳や家具・家電製品など、多くのごみが発生するため、市町村による災害廃棄物の仮置場が設置されるなど、ごみ収集が通常とは異なる体制で行われる場合があります。

また、水に浸かったごみを長時間積み置いた状態にしておくと、悪臭やネズミ・ハエなどの発生原因となることもありますので、市町村の指示に従って適切に排出してください。

Ⅲ 消毒

1 消毒薬の使用方法

市販されている代表的な消毒薬等の使用方法です。

消毒対象	消毒薬等	調整方法	使用方法
手指	・石鹼と流水 ・手指消毒用アルコール		① 汚れを石鹼で洗い、流水で流す ② 清潔なタオルで手指を拭いた後、可能ならアルコールで消毒する
食器類 流し台 浴槽	次亜塩素酸ナトリウム(家庭用塩素系漂白剤) ※市販の家庭用「ハイター」や「ブリーチ」の原液濃度は約5% 注1)	・0.02%程度に希釈して使用する (希釈方法は「2 消毒薬の調整方法」を参照してください)	① 食器用洗剤と水で洗う ② 希釈した消毒薬に5分間漬けるか、消毒薬を含ませた清潔な布で拭いた後に、水洗い又は水拭きする ③ よく乾燥させる ※噴霧危険
	消毒用アルコール ※アルコール濃度70%程度のものを使用 注2)	・希釈せず、原液のまま使用する	① 洗剤と水で洗う ② アルコールを含ませた布で拭く ※噴霧危険
	熱湯消毒	・80℃の熱水に10分間漬ける	食器の消毒に使用する ① 汚れを洗い流してから行う
	10%塩化ベンザルコニウム 注1)	・0.1%程度に希釈して使用する (希釈方法は「2 消毒薬の調整方法」を参照してください)	① 泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる ② 調整した液を浸した布でよく拭く

家具類 床 堅い表面	次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤） ※市販の家庭用「ハイター」や「ブリーチ」の原液濃度は約5% 注1)	・0.1%程度に希釈して使用する (希釈方法は「2 消毒薬の調整方法」を参照してください)	① 泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる ② 調整した液を浸した布などでよく拭く ③ 金属面や木面など、色あせが気になる場所は、水で2度拭きする ※噴霧危険
	消毒用アルコール ※アルコール濃度70%程度のものを使用 注2)	・希釈せず、原液のまま使用する	① 泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる ② アルコール液を浸した布でよく拭く ※噴霧危険
	10%塩化ベンザルコニウム 注1)	・0.1%程度に希釈して使用する (希釈方法は「2 消毒薬の調整方法」を参照してください)	① 泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる ② 調整した液を浸した布でよく拭く
井戸水	清掃		① 汚水をくみ出して、井戸の中に溜まっている堆積物をさらい出す ② 浅井戸の場合は新しい砂利を井戸底に敷き詰める ③ 飲用する前に水質検査を受ける
浄化槽	清掃		○浄化槽の細菌が死滅するため、消毒薬は流さない ○使用前に保守点検業者に相談する

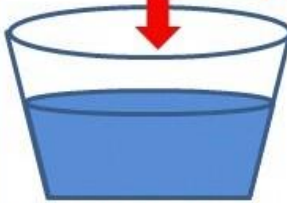
注1) 消毒薬の使い分けについては、以下を参考にしてください。

- ・汚染の程度がひどい場合や長時間浸水していた場合は、なるべく次亜塩素酸ナトリウムを使用してください。
- ・次亜塩素酸ナトリウムにより、対象物が色あせしたり、腐食したりすることがあります。これらを避けたい場合は、アルコールや塩化ベンザルコニウムを使用します。
- ・次亜塩素酸ナトリウムと次亜塩素酸水とは別ものです。適切に使用してください。不適切な使用では効果を得られないだけでなく、健康被害を引き起こすことがあります。使用方法は必ず守ってください。

注2) 70%程度のアルコール濃度のものは、火気のあるところで使用しないでください。

2 消毒薬の調整方法


0.1%希釈の簡易的な方法



消毒液
コップ100cc

10%消毒液であれば…
コップ1杯 (100cc)を入れて、
水 (10ℓ) を入れる

バケツ (10ℓ) を使用する場合

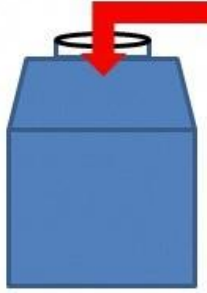


※キャップ1杯 (4~5cc)

10%消毒液であれば…
ペットボトルのキャップ**2杯**を
入れて、水 (1ℓ) を入れる

ペットボトル (1ℓ) を使用する場合

0.02%希釈の簡易的な方法



キャップ1杯 (4~5cc)

10%消毒液であれば…
ペットボトルのキャップ**1杯**を入れて、
水 (2ℓ) を入れる

ペットボトル (2ℓ) を使用する場合

出典：厚生労働省「浸水した家屋の消毒手順」

○ 消石灰の取扱いに注意

肌や目を痛めるため、消石灰の使用には十分な注意が必要です。

消石灰は、アルカリ性であり、肌や目に触れると炎症を起こします。
特に、まいた消石灰が飛散して目に入ると、大変危険です。
使用する場合は、必ずゴーグル、保護マスク、ゴム手袋、長靴、長袖、
長ズボンを着用してください。
目に入った場合、失明する恐れがあるため、すぐに大量の水で洗い流し、
医療機関を受診してください。

注) 屋内には使用しないでください。

IV 水害時の衛生・消毒に関する情報

- ＜暫定版ガイダンス＞一般家屋における洪水・浸水など水害時の衛生対策と消毒方法

日本環境感染学会

http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/suigaiji-uidance_zanteiban.pdf

- 被災した家屋での感染症対策

厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00341.html